

Q-0302 舗装が損傷したときの補修は難しいのではないですか？

コンクリート舗装の破損には、ひび割れ、段差、摩耗、ポリッシング及び角欠けなどのコンクリート版に対する物理的な損傷と、ポーラスコンクリート舗装などの機能性舗装においては機能に対する性能低下がある。これらの破損には、それぞれ補修工法又は機能回復工法が確立されている（下表参照）。補修工法を選定する際には、劣化のメカニズム、劣化原因、破損の状況、補修現場の状況などを十分に勘案して、補修の必要性や工法を検討しなければならない。

一般に、コンクリート舗装はアスファルト舗装に比べて耐久性が高く、路面の損傷や機能低下を起こしにくいので、日常的な維持補修の回数は大幅に少ない。また、軽度の破損部の維持補修では、コンクリート舗装とアスファルト舗装の補修性に大きな差はない。しかし、重度の破損が生じた場合には、コンクリート舗装の補修にかかる日数はアスファルト舗装に比べて長くなることが多いので、コンクリート舗装の破損が軽度であっても重度につながる懸念がある場合には、適切な維持補修を行うことが有効である。

表 破損の種類と補修工法（○：一般的な適用工法）

コンクリート版の 破損の種類	補修工法の種類									
	シーリング工法	パッチング工法	表面処理工法	粗面処理工法	注入工法	バーステッチ工法	局部打換え工法	オーバーレイ工法	打換え工法	機能回復工法
ひび割れ (版底面に達しない)	○		○							
ひび割れ (版底面に達する)	○				○	○	○	○	○	
段差		○		○	○			○	○	
摩耗		○	○	○				○		
ポリッシング			○	○						
角欠け ポットホール		○								
目地縁部の角欠け	○	○								
目地材の飛散	○									
空隙づまり										○

注) (一社)セメント協会：コンクリート舗装の維持補修技術資料 2010 年度版より